

令和5年度事業報告書

学校法人 箕面自由学園

1 設置する学校及び学則定員、在籍者数の状況（令和5年5月1日現在）

（単位 人）

	高等学校	中学校	小学校	幼稚園
学則定員	2,160	240	420	280
在籍者数計	1,890	199	142	227
男子	1,087	106	62	102
女子	803	93	80	125
1年	347	63	32	70
2年	835	60	27	83
3年	708	76	30	74
4年			24	
5年			13	
6年			16	

※幼稚園の年少組は1年欄に、年中組は2年欄に、年長組は3年欄にそれぞれ表示

2 学費等（令和5年度在校生）

	内 容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
高等学校	検定料	20,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	564,000	564,000	564,000			
	施設費	36,000	36,000	36,000			
中学校	検定料	20,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	564,000	564,000	564,000			
	施設費	36,000	36,000	36,000			
小学校	検定料	15,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	474,000	474,000	474,000	474,000	474,000	474,000
	施設費	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000
幼稚園	入園金	110,000	100,000	90,000			
	保育料	336,000	324,000	324,000			

※授業（保育）料および施設費は年額表示

※入学金欄の（ ）内は、内部進学者適用額

※幼稚園の年少組は1年欄に、年中組は2年欄に、年長組は3年欄に表示

3 役員に関する事項（令和6年3月31日現在）

理事定数 9～18名 現員 11名
 監事定数 2名 現員 2名

4 評議員会・理事会の開催状況

	評議員会		理事会	
第1回	令和5年	5月24日	令和5年	4月12日
第2回	令和5年	12月13日	令和5年	5月24日
第3回	令和6年	3月13日	令和5年	7月12日
第4回			令和5年	7月31日
第5回			令和5年	9月13日
第6回			令和5年	10月11日
第7回			令和5年	12月13日
第8回			令和6年	1月10日
第9回			令和6年	2月13日
第10回			令和6年	3月13日

5 教職員数（令和5年5月1日）

（単位 人）

	人 員	専 任	常 勤	非常勤
合 計	262	108	79	75
教育職員	187	91	59	37
高等学校	134	59	44	31
中学校	17	12	3	2
小学校	17	8	5	4
幼稚園	14	9	5	0
本 部	5	3	2	0
事務職員等	75	17	20	38
高等学校	6	2	4	0
中学校	2	0	2	0
小学校	5	1	0	4
幼稚園	23	1	0	22
本 部	39	13	14	12

※アルバイトは、非常勤欄に表示

6 事業の概要

(1) 令和5年度 施設・設備（主な新設・改修・設置等）

【高等学校5.6号館教室改修工事】（令和5年4月4日竣工）

事業目的

5号館情報教室移設及び6号館多目的教室並びに5号館普通教室に変更改修工事

工事費用

投資額 2,585万円 （資産計上 2,252万円 経費計上 333万円）

【高等学校グランド人工芝舗装工事】（令和6年3月27日竣工）

事業目的

グランド人工芝及び陸上競技用複合弾性舗装工事（9000㎡）

工事費用

投資額 15,708万円 （資産計上 15,432万円 経費 276万円）

【中学校グランド人工芝舗装工事】（令和5年8月28日竣工）

事業目的

バドミントンコート1面及びテニスコート3面人工芝舗装工事（3600㎡）

工事費用

投資額 4,422万円 （資産計上 4,233万円 経費 189万円）

【中学校グランド照明設備工事】（令和5年7月12日竣工）

事業目的

グランドLEDナイター照明設備新設工事

工事費用

投資額 495万円 （資産計上 495万円）

【幼稚園外部フェンス改修工事】（令和5年9月13日竣工）

事業目的

安全対策の為既設フェンス高1200から1800に取替改修工事

工事費用

投資額 935万円 （資産計上 463万円 経費 32万円）

【プレイルーム外部フェンス改修工事】（令和5年9月13日竣工）

事業目的

安全対策の為既設フェンス高1000から1800に取替及び新設改修工事

工事費用

投資額 397万円 （資産計上 383万円 経費計上 14万円）

(2) 高等学校の教育充実

令和5年度の入学者は募集定員560名を大きく下回り、346名となった。

専願者は205名（令和4年度は425名）、併願者は90名（同454名）、内部進学者は51名であった。前年度、前々年度と募集定員560名を大幅に上回り、生徒の学校生活に関して、「いろいろな面で支障をきたしている」との現状分析をし、令和5年度の入学生に関しては、「レベルを上げ、少数精鋭化」することで生徒募集をし、上記のような結果となった。

特に、文理特進コースから進化発展させた文理探究コースは、募集形態を①専願のみ募集、②当日の入試に関して、I類から文理探究コースへのいわゆる「まわし合格」は行わない、

とした。その結果、募集定員 80 名に対し、81 名の合格、入学となった。

人数的には大きくは減少したが、ここ数年の規模の拡大は、本校のキャパを大きく超えていたので、令和5年の入学生より本来の適正規模、すなわち募集定員 560 名に可能な限り近づけていくという努力をしていかなければならないと考えている。

そのためには、高等学校全体の継続的な取り組みへの外部評価をより一層定着させる。具体的には、挨拶の励行、ルールの遵守、マナーの向上を念頭置いた生徒指導、進学への取り組みとその成果、クラブ活動への取り組みと実績等、生徒、保護者の満足度の向上などである。高校3学年の在籍者の一人ひとりが愛校心を持ち、「本校の生徒であること」にプライドを持てるように、教職員一丸となってさらに取り組んでいく必要がある。

高等学校は、4つのコースがそれぞれの特徴を活かし、取り組みを強化していった結果が出てきているように思われる。国公立大学は、東京大学1名、京都大学2名、大阪大学2名、神戸大学6名、北海道大学1名、九州大学1名、大阪公立大学9名ほか合計 159 名が合格（昨年度は 113 名）し、過去最高の合格数となった。難関私立大学では、関関同立で 471 名（関西学院大学 173 名、関西大学 143 名、同志社大学 59 名、立命館大学 96 名）が合格しており、関東難関私大の早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学、東京理科大学等にも合格し、その成果は着実に出てきている。令和5年度は、SS特進コース設置初年度の卒業生であり、その相乗効果もあってか、S特進、特進、文理進学の各コースにおいても国公立大学、難関私立大学の合格を勝ち取ってきている。これは生徒の自主的な選択が活力を生み、自分が目標設定をし、努力を積み重ね、合格をつかみ取ってくる原動力となったと思われる。

この流れは、生徒主体で「自分の人生の方向性をしっかり決めて努力をする」、教師はそのサポート役に徹することで、生徒が自主的に自分の道を切り開いてきたということである。

クラブ選抜コースは、それぞれの強化クラブが日々の継続的な努力の結果、輝かしい実績を出してきている。

放課後の時間はデザインタイムと名づけて、生徒の選択制としている。

デザインタイムとは、「生徒が、やらされるのではなく自分で決めて、自分で積極的に取り組む」そういう時間である。

日常的な取り組みとしては、クラブ活動・講習（補習）・自学自習・イングリッシュルームの利用・オンライン英会話・スタディサプリでの勉強など、イベント的な取り組みとしては、各種講演会・グローバルリーダー育成プログラムなどの自主研修・イングリッシュ・スピーチコンテストなどがある。もちろん、自分の習い事などの選択も可能とした。

限られた時間を生徒一人ひとりが、主体的に有効に使おうという全学的な取り組みである。生徒たちの積極的な取り組みがかなり定着してきたように思われる。

(3) 中学校の教育充実

令和5年度も教科別習熟度(英・数)は継続しながら、学びを深めるため放課後は「Jタイム」として自分で選べる講座制の時間を使用して、「それぞれの学力(興味)に合った」放課後の時間を提供した。平行して国語・数学・理科・英語の朝テストを実施し、場合によってはフォローアップも行った。木曜日には「教養」の講座も開講した。「ルートS」という取り組みでは、併設の高等学校の上位コースである「SS特進・S特進コース」への進学を目指す生徒を対象に個別での課題学習・学習指導を行い、実践力を高めた。また昨年度、内部進学コース決定後に上位コースへの希望がかなわなかった生徒が外部受験をしたことから、「チャレンジ受験」を導入。希望者は2月10日に高校受験を実施した。ただし、希望する上位コースの合格を得ることはできなかった。

7月と3月にサイエンスフェスタ&グローバルチャレンジを実施。たくさんの小学生に対して、堂々と本校生徒たちがプレゼンテーションを展開。日頃の生徒の教育活動の成果を発表すると共に、来場されたたくさんの保護者から感動の声をいただいた。

行事については、4月に2回目となる「GB フェスタ」を開催。これは高等学校アメリカンフットボール部の春の大会の応援に、中学生全員を連れていき、高校吹奏楽部やチアリーダー部と一緒に応援する中で、「箕面自由学園生」としての自覚と誇りを確認する機会となった。また、5月中旬の高校中間考査期間に高校グラウンドで体育大会を実施した。

10月には中学1年生は「イングリッシュキャンプ」を学内で、2年生は、「SDGs キャンプ」を小豆島方面で実施した。また、中学3年研修旅行はシンガポール方面で実施し、今年度はマレーシアにも訪問した。11月にコース別授業のまとめとして「MJG フェスティバル」と12月の「MJG クエスト」では、年間を通じて総合的な学習時間で活動した「I・U」(intelligence ultimate)の発表の場として全員が堂々と発表ができた。また、コース別授業の発表の場として、3月にも「MJG クエスト(Ⅱ)」を実施した。

1月、中学入試も順調に実施できたが、受験者数は昨年度より増加したが、入学者は51名が見込まれ、新入生はやや減少した。2024年度は、中学1年51名、中学2年64名、中学3年57名、合計172名でスタートする。

今年度の中学3年は、中高一貫2年目であり、76名中64名が箕面自由学園高等学校を選択、SS(1)、S(5)、T(20)、B(31)、C(7)にそれぞれ進学した。

年々、中学生の意識も高まり、教職員の教育活動の変化が求められるようになってきた。教職員は日々自己研鑽に励み、変えてはいけない部分と変化しなければならない部分の両立を図る必要がある。小学校からの接続、高等学校への接続を考えながら、中学校としての魅力を磨き、発信する必要があると考える。

(4) 小学校の教育充実

「実践と体験をとおして、教養高い社会人を育てる学校」としてのブランド力向上を念頭に、五感を使った体験と学びを推進した。

① 教科指導

前年度に行った年間指導計画の点検をもとにし、教科年間指導計画(教科横断・英語教育のカリキュラムの強化)の実践に注力した。特に、教科横断の学びは、担任と専科、専科教員間での情報共有が欠かせず、今後も意識して共有・発信することとした。

また、英語教育については、低学年でのカリキュラムを外部専門家と連携しながら見直しを行い4技能の向上において成果が見られた。

② 授業研修の推進(進学コース指導強化)

年間を通じて、ICTを取り入れた授業研究として、外部講師を招聘しMeta Mojiに関する研修を行った。その他の研修としては、3名の新任研修として研究授業を行い、お互いの授業について情報交換をすることができた。

コース指導については、発展・進学で指導の進捗や内容の情報交換を行い、両コース共に受験に向け学力向上を意識することができた。私学テストのデータ分析も全教員に共有をしている。

③ ICTの推進

前述の通り、学習アプリ(Meta Moji)については外部講師の研修を通じて、授業での取り組みも積極的に行うことができた。

2023年度末に、児童・家庭・学校をつなぐ「まなBOX」のサービス終了を受け、2

学期より「Google クラウド」を試験的に導入し、2024 年度実施に向け準備を行った。

また、2023 年度末でタブレットの再リースとなるため、機器の回収と次年度準備については、ICT 担当者を中心に高等学校と連携を取りながらすすめた。

④ 行事について

1～3 年宿泊行事日程の変更を 6 月から 9 月に変更し、行事準備の時間確保を行った。

4・5 年臨海学校遠泳を海に親しむ体験型に変更、1 日短縮して 1 泊 2 日(淡路島)とした。年 3 回の遠足+社会見学を整理し、遠足は縦割り活動や社会見学に移行した。諸物価高騰の折、今後もこの内容で、公共交通機関を利用することが望ましい。

⑤ 放課後の課外活動

多彩な課外講座の中でも、進学発展演習(校内塾)と学童保育(わくわく HOME)は、ニーズが高く参加者も多いため、本校の特色ある取り組みとして継続をしていきたい。

特に、学童保育(わくわく HOME)では、今年度より中高生のボランティアを導入し、新たな学園内のつながりが確立された。小学生・中高生共に成長へのメリットが多く、今後は、学習に関する課外活動へのつながりへと発展することが期待される。

上記の教育活動を通じて、卒業生はそれぞれが希望する進路へ進むことができ、卒業式でのメッセージには 6 年間で振り返っての思い出や感謝、これからの夢がこめられていた。

また、次年度入学者の募集については、前年度以上の出願者があり、2024 年度より新生 2 クラス体制となったことは大きな前進である。今後も、次世代を担う「教養高い社会人」となるための土台作りを行っていききたいと考える。

(5) 幼稚園の教育充実

「体験と感動」を中心にした保育は五感を鍛え、豊かな心を育む。農園や果樹園を備える幼稚園ではコロナ禍でも多くの生き物とふれあい、自然の中で活動することができるため、通常保育の中でも多くの行事をおこなうことができた。社会情勢から保育の現場には厳しい目が向けられているが、恵まれた環境の中で、「安全・安心・質の高い保育」を続けていくための日々の活動の見直しをおこなっている。

令和 5 年度は、主体性保育を本格化させ 2 年目となった。さらに英語活動と外遊び、ICT 環境による保護者への情報発信の 3 項目に力を入れた。英語活動は、職員室にネイティブが常駐し、行事に参加することで子どもたちとの距離が縮まり「英会話」をより身近な存在として認識するようになった。英語教育の充実化も 2 年目となり、子どもたちにとっても日々の積み重ねが成果として見られるようになった。子どもたちの日常に英語での会話が自然とできるようになっている。給食後に職員室に「yummy」と報告に来る子どもやレッスン前に積極的に話しかける子どもたちの姿が見られた。

これまでは時間が限られていた外遊びも、天候などが許す限り朝から取り入れた。園庭での泥団子あそびや色水あそび、数種類の石けんを比較しながらおこなった泡あそびでは体験を通して試行を繰り返す、思考を深める機会となった。また、農園や果樹園への観察も積極的にいき、そこで発見した虫や、野草などにも興味関心をもつことで子どもたちの探求心を育み、世界を広げる一助となっている。園庭で 3 学年が入り交じりお互いに刺激を受け支え合いながらあそびの幅を広げる取り組みは、大規模幼稚園の魅力となっている。ICT システムを導入し、保育の様子を保護者へ伝える取り組みは保育者、保護者ともに慣れるまでは時間がかかったが、年中のデイキャンプや年長の宿泊保育の様子を配信するなど、配信機能を

存分に使った取り組みも実践できた。

現在の保育はドキュメンテーションが主流となっており、映像記録の重要性が高まっているため、機器の扱いや ICT 研修が必須となっている。

施設の充実としては、令和4年度に引き続き、図書室の蔵書の整理と購入をおこなった。畳のスペースを作り、ゆったりと絵本を愉しむ姿が見られるようになった。また、100周年記念事業として、園庭を囲むフェンスの高さを高くし、部外者侵入の対策を行った。やわらかいデザインのフェンスのため、変わらず開放感を感じられるものとなった。また、アスレチック広場につながる部分には第2砂場やアスレチックの増設がなされ、子どもたちの創造豊かな遊びや体幹を鍛えられる、有意義なあそび場となっている。

小学校や高校吹奏楽部との交流など異年齢との関わりも継続しており、豊かな心を育む機会となった。年長児は SDGs を意識したプログラムをおこなっており、様々な国籍を持つ子どもたちとの会話などを通して世界や地球を考える機会を得た。

あずかり保育の需要も高まっており、特別カリキュラムを楽しみに参加する子どもも増えている。地域の子育て支援の取り組みとしては、0歳児対象「ぱぱ・ままくらぶ」、未就園児対象の「ふれあいサロン」「ようちえんであそぼう」を実施しており、回を追うごとに人気が高まっている。

令和6年度より、施設型給付幼稚園として、さらに保育の質の向上と、保護者ニーズに答えられる幼稚園として運営していきたい。

7 当期の業績（財務状況）

（1）収入の概要

在籍生徒数は、全体で 2,458 名となり前年度より 246 名減少となった。減少人数の内訳は、高等学校で 243 名減、中学校で 1 名増、小学校で 3 名増、幼稚園で 7 名減となった。このため、学園全体の授業料関係の補助金を含む学生生徒等納付金は 2 億 5,065 万円の収入減となった。（学生生徒等納付金で 2 億 926 万円の減少、授業料軽減補助金で 4,139 万円の減少。）

手数料収入は、2024 年度高等学校入学試験受験者数の増加により、前年度より 1,563 万円の収入増となった。

寄付金収入は、高等学校チアリーダー部 NBA ハーフタイムショー寄付の受入により、2,141 万円の収入増となった。

特別収入は、100 周年記念募金の受入により、3,031 万円の収入増となった。

以上から「事業活動収入計」は、前年度より 1 億 2,239 万円の収入減（対前年 4.7%減）となった。

（2）支出の概要

人件費は、前年度より 2,817 万円の支出減となった。主な要因は、自己都合退職者数の増加に伴う学園負担額の減少により退職給与引当金繰入額が 2,009 万円減少したことによる。

教育研究経費は、前年度より 4,042 万円の支出増となった。主な要因は、高等学校チアリーダー部 NBA ハーフタイムショーアメリカ渡航費用の発生により旅費交通費が 2,298 万円増加したこと及び、ネイティブ講師派遣料の増加等により会費報償費が 1,840 万円増加したことによる。

以上から「事業活動支出計」は、前年度より 475 万円の支出増（対前年 0.2%増）となった。

(3) 収支のまとめ

令和5年度の「事業活動収入計」は24億6,720万円、「事業活動支出計」は23億4,779万円となり、「基本金組入前当年度収支差額」は、1億1,940万円の収入超過となった。

8 資産総額

令和6年3月末日の資産総額は60億9,568万504円（対前年1億1,940万8,407円の増額）であった。

9 施設関係（令和6年3月31日現在）

(1) 校地

（単位 m²）

	合計	高等学校	中学校	小学校	幼稚園
運動場敷地	20,669	9,279	4,676	3,299	2,365
建物敷地	28,546	20,261	1,146	6,306	1,883
合計	49,215	29,540	5,822	9,605	4,248

(2) 校舎

（単位 m²）

	合計	高等学校	中学校	小学校	幼稚園
校舎					
建築面積	9,140	5,851	866	1,451	972
延床面積	21,935	15,802	1,685	3,033	1,415
体育練習場					
建築面積	3,965	3,965	0	0	0
延床面積	6,486	6,486	0	0	0
合計					
建築面積	13,105	9,816	866	1,451	972
延床面積	28,421	22,288	1,685	3,033	1,415